

総務消防常任委員会会議録

- 1 日 時 令和7年1月30日(木)
午前9時58分～午前10時59分
- 2 場 所 第4委員会室
- 3 出席委員 委員長 菊地 忍 副委員長 二階堂 充
委員 寺嶋 雅子 委員 大久保主計
委員 吉田 良 委員 郷内良治
委員 大泉 徳子
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明のため 選挙管理委員会会長 中 島 千鶴子
出席をした 選挙管理委員会 鈴木 利 夢
者の職氏名
- 6 事務局職員 主 査 石 田 ゆ い
- 7 付議事件
1 投票率の向上について
(1) 投票率向上に向けた取組について
(2) 期日前投票について

午前9時58分 開 会

○委員長（菊地 忍） 出席委員は、定足数に達しておりますので、委員会条例第14条の規定により委員会は成立いたしました。

ただいまから、総務消防常任委員会を開会いたします。

これより、本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の委員会次第書のとおりであります。

この際、諸般の報告をいたします。

本日の会議に係る一切の資料を、お手元に配付しておりますので御了承願います。

これをもって諸般の報告を終わります。

それでは、付議事件1 投票率の向上についてを議題といたします。

初めに、本日の進め方について、説明いたします。

まず、執行部より本日の説明要請事項について、全て御説明いただき、その後、委員各位より項目ごとに質疑をお受けする形で進めてまいりますので、よろしくお願いたします。

休憩をして進めてまいります。暫時、休憩いたします。

午後9時59分 休 憩

*休憩中の要旨

○投票率の向上について

執行部より、各項目について説明をした。内容は以下のとおり。

（選挙管理委員会事務局）

（1）投票率向上に向けた取組について

①具体的な取組内容について

選挙啓発活動としては次の項目を実施している。（若者に特化した取組内容については②に記載）

ア なとり秋まつりへの出展（模擬投票、パネル展示）

※令和6年度は衆議院議員総選挙の影響で出展を見合わせた。

イ 選挙時の啓発活動

（ア） 明るい選挙推進協議会による街頭啓発活動

（イ） 横断幕の掲出による啓発

- (名取駅東西自由通路、杜せきのした駅連絡通路、名取市役所)
- (ウ) 市内大型店舗・パチンコ店（1社）への放送等での啓発依頼
 - (エ) 名取市選挙管理委員会公式Xによる選挙に関する情報提供

②若者に特化した取組内容について

- ア 明るい選挙啓発ポスターコンクールの作品募集、審査、展示
(対象は市内小・中学校生)
- イ 選挙年齢に達する市民に向けての選挙啓発冊子の送付（毎月）
- ウ 市内小中学校・高等学校等への投票箱等の貸し出し
- エ 市内高校への出前講座の実施（宮城県と共催）

③移動支援策の検討について

過去の議会でも答弁しているように、対象者や対象エリアの設定などが課題と考えている。

また、対象者数の見込みに加え、費用対効果がどれだけ見込まれるのか等、引き続き他自治体の状況について情報収集の上、研究を重ねる必要があると考えている。

(2) 期日前投票について

①名取駅コミュニティプラザへの期日前投票所を設置したことに対する評価・反省点について

名取駅コミュニティプラザへの期日前投票所設置については、来場した有権者から「とても良い」「これからも引き続き設置してほしい」と複数の声が寄せられ、市民の投票環境の向上に寄与したものと捉えている。

現時点での反省点は特にないが、施設のキャパシティーには限界があるため、今後、来場者が増加した場合や、同時選挙が行われた場合などの対応について、検討していく必要があると考えている。

投票率への影響については、名取駅コミュニティプラザ利用率が最も高かった増田西地区と本市全体及び全国の投票率を比較してみたが、増田西地区については市全体よりも投票率は低いものの、投票率の前回比につい

ては、0.51ポイント分市全体より落ち込みが少ない。

ただし、この差について、期日前投票所の増設と関連するか否かの判断は難しいと捉えている。今後の選挙での状況も引き続き見守りたい。

○衆議院総選挙投票率（小選挙区の在外選挙人分を除く投票率で比較）

・平成29年度

53.71%（全国） 53.07%（名取市） 52.25%（増田西地区）

・令和3年度

55.96%（全国） 56.00%（名取市） 54.97%（増田西地区）

→差（令和3年度－平成29年度）

2.25ポイント（全国）

2.93ポイント（名取市）

2.72ポイント（増田西地区）

・令和6年度

53.88%（全国） 53.14%（名取市） 52.62%（増田西地区）

→差（令和6年度－令和3年度）

-2.08ポイント（全国）

-2.86ポイント（名取市）

-2.35ポイント（増田西地区）

○名取駅コミュニティプラザ 地区毎利用者数（上位5地区）

・増田西地区 206（男性） 333（女性） 計 539 割合 42.24%

・増田地区 110（男性） 220（女性） 計 330 割合 25.86%

・愛島地区 60（男性） 72（女性） 計 132 割合 10.34%

・館腰地区 22（男性） 44（女性） 計 66 割合 5.17%

・高館地区 20（男性） 46（女性） 計 66 割合 5.17%

②名取駅コミュニティプラザでの期日前投票実施の日数を増やすことや、商業施設、大学等への設置の検討について

名取駅コミュニティプラザ期日前投票所については、令和6年度から開始したばかりのため、基本的には令和7年度の選挙では今回と同じ形で実施し、来場者数や投票率、市民の意見等を基に、その後の在り方を検討したいと考えている。

商業施設については、これまでもイオンモール名取での期日前投票所設置について検討した経緯はあったが、名取市役所とイオンモール名取が近いということもあり、現状では設置については考えていない。

大学等の学校への設置については、相手方もあることなので、まずは先方と情報交換をしていきたいと考えており、尚絅学院大学に情報交換の機会提供を依頼している。

いずれの場合においても、期日前投票所増設においては、管理者・立会人等の担い手確保等の課題もあり、優先順位をつけて検討していくことが必要と考えている。

<質疑応答>

(1) 投票率向上に向けた取組について

(質) ① (ウ) 市内大型店舗・パチンコ店(1社)への放送等での啓発依頼とあるが、なとりん号での車内放送を検討したことはあるか。

(答) 市内大型店舗では15店舗に依頼しているが、なとりん号の車内放送は検討したことがなかった。それであれば取組可能だと思う。しかし、先方があることなので、防災安全課にも確認し、もし可能であれば放送をお願いしようと思う。

(質) 大型店舗では、放送を流す期間や1日何回ほど流しているのかなど、どのようにしているのか。

(答) どれくらいの期間や何回放送するかについては、先方にお任せしている。先方の負担にもなるので、放送したかどうかなどの確認はとっていないが、期間中にできるだけ協力をしてくださいということをお願いしている。また、パチンコ店では表の電光掲示板で流していただいている。

(質) 投票率の低下が進んでいる。どこの選挙管理委員会もいろいろ努力していると思うが、そのようにしていてもマイナスになっているので、もう限界かなと思っている。選挙するかしないは、選挙人の意識の問題だと思う。選挙管理委員会だけで実施できる問題ではない。行政や国が一体となって選挙人に働きかけるのがよいと思うがどうか。

また、投票した人へのポイント付与などは絶対に実施するべきではない。政策、政治に関心を持った上で投票をするべきであり、ポイント欲しさで投票をするのはいかがなものかと思う。ポイント付与は考えないほうがよいと思うがどうか。

(答) 委員おっしゃるように限界があると感じている。いろいろな策で人を呼び込もうとする動きがあるのは把握しているが、それは一過性のものだと思う。何か得をしないと選挙に行かないのはよろしくないので、やはり意識の向上が大切だと思っている。

しかし、選挙管理委員会だけでは限界があり、小さく終わってしまうので、市民や議員の皆様など、いろいろな方を巻き込んで協力を得ながら、政治、選挙に関心を持って、気持ちを高めていくことが大事だと思う。

尚絅学院大学と情報交換はしており、気運の醸成が必要だと思っている。先日、議員の皆様が議会懇談会をワールドカフェ方式で開催したと聞いており、非常によい取組だと思っていたところである。そういった機会に我々も協力させていただいて、選挙や投票率などについて話をしたり、そういうテーマで若い人の意見を聞く機会などをいただけたら嬉しい。何か機会があればお声がけや、アイデアがあればぜひ教えていただきたい。

(質) 投票率向上も大事だが、兵庫県知事選挙のように、あの議員は悪いやつだというように家に押しかけるなど、そういう形で盛り上がるのはとても不健全だと思うので、SNS対策なども同時にしていく必要がある。何か特典があるから投票に行くということでは適切ではないと思うので、極端な話、政治に興味がないなら行かなくてもよいのではとも思う。

本当は投票に行きたいけどなかなか行けないという人がどういう層の人たちで、その人たちに行ってもらうために、どういう策を講じるべきかということからまず進めていった方がよいと思うがどうか。

(答) 啓発策についていろいろ調べてはいたが、委員おっしゃるとおり、本当は投票に行きたいけど行けないという人が行けるようにするという投票環境の充実と、投票率向上は分けて考えたほうがよいのではないかと考えている。整理をして考えるべき。それから、市の選挙管理委員会事務局として目指していくべき選挙の形というものを、何か目標などを作って、その上で投票環境を充実させていく。また、みんなのマインドを変える策などを整理して、目標や計画などを立て、将来あるべき姿を見定めていく。予算や人員を加味して優先順位を決定し、今後実施できることを実施していくとか、計画を立てていく必要があると考えている。

(質) ②若者に特化した取組内容について、ウ 市内小中学校・高等学校等への投票箱等の貸出しとあるが、小中学校・高等学校等に投票箱の貸出しをすることで、投票に慣れさせる効果はあるとは思いますが、しかし、本来主権者教育というものは、ただ投票の予行練習だけをさせるものではなく、物事を決めていく過程を学校教育の中でしていくことだと思えます。生徒会などを中心に執行部が選ばれ、執行部を中心として学校の運営をして、それに子供たちを関わらせることが主権者教育だと思えます。それを行わずに、あるいは形だけ行って、教師の下請け機関のような生徒会運営をしていては、本来の主権者は生まれません。

生徒会や選挙管理委員会としては、教育委員会との連携が必要であり、ただ投票箱を貸し出せばよいということではないと思えます。実際に、本当の意思決定をしていく過程をもっと学校教育の中で重視するよう、アドバイスをしたらよいと思えますが、いかがか。

(答) 教育委員会との連携は必要と考えており、機会があれば意見交換などもできればと思っています。しかし、学校のカリキュラムが忙しくて大変な状況ということも聞いている。情報交換をして、お互いにできることは協力していきたい。

(質) ②若者に特化した取組内容について、イ 選挙年齢に達する市民に向けての選挙啓発冊子の送付について、自分の子供にも冊子が届いたが、難しい内容のものは目を通さない。簡単な絵本の状態になっているものは辛うじて読む程度である。若者の特徴として、SNSなど様々な情報が流れていて、自分の好きなものだけ見るということに慣れてしまっている環境だと、関心のないもの

の活字を読んでいくことが苦痛なのではという印象を持つ。例えば柴田町議会では、議員を身近に感じるような紹介動画があるので、参考にしてほしいのだが、動画配信など、SNSの活用を考えたことはあるか。

(答) 将来的には必要だと思っている。しかし、選挙管理委員会だけでは難しいと考えており、例えば市民協働提案事業の行政提案型などがあるので、そこで手を挙げるなども考えられる。実際、選挙期間中に他の業務をすることが難しいということが分かった。令和8年度など、予定された選挙がない年もあるので、そういう時期を利用して、選挙がない時期にできる協力体制を作れるように考えていけたらと思う。また、動画などについては、市民や学生の皆様にご協力をいただけるのであれば、実施していきたい気持ちはある。

(質) 子連れでの投票について、当日に子連れだと迷惑をかけてしまうから期日前投票に行く方も多いと感じるし、子連れで行くことに躊躇して投票ができない方ももしかしたらいるかもしれない。子供の目の前で親が投票行動しているということが将来の投票への啓発につながってくるというところもある。子連れでも投票できる、家族みんなで投票に行こうなど、そういう啓発のやり方は考えているか。

(答) 個別具体的に実施することは考えていなかったが、菅原和子議員の一般質問で、子供時代に親について行って投票に行くと、将来の投票率が上がるという総務省のデータの話があったので、そういうお知らせもしていきたいと考えている。しかし、お知らせの方法や時期については、やはり練って発信しないとただ発信しただけになってしまうので、例えばママさんが集まる機会を狙うとか、議員の皆様にも御協力いただくなど、いろいろ考えたい。また、今後の啓発についてどのようにしていくか計画を立てる中でそういうことも組み入れて、考えていきたい。

(質) 政治に興味がないと、投票行動にはなかなか結びつかない。最近の身近な学校の動きでは、地域学校協働本部などを中心に、例えば、増田中学校で地域を知る学習として議員が派遣要請を受けて、議会の説明をする活動をしている。また、先日第二中学校3年生のうち9名が、議会に対する陳情を考え、名取市政への要望書発表会という形で、議員も発表会の場に講師として参加した。小さな一歩ではあるが、政治に興味を持つというとても大きな場面だったと思

う。資料の1ページ目にこれからの施策としていろいろ掲げられているが、施策を前進させるには分析が必要だと思う。投票率の年代別の集計が必要だと思うがどうか。また、天候が投票率に影響することもあると思う。高齢者が安心して投票行動に結びつくよう、策を練ってほしい。

(答) 菅原和子議員の一般質問に対する答弁でもお答えしているが、年代別の集計ができるのが、31投票所のうちパソコンを導入している19箇所の投票所のみという状況である。導入している投票所は有権者数が多いところなので、大体の全体的な傾向はつかめると思う。若者の投票率が低いことを見せて危機感を示すなどして啓発すべきとの声もいただいている。参考値として公表し、啓発の材料として使っていきたい。効果的に若者に届く方法を考えていきたい。

(質) ②のア 明るい選挙啓発ポスターコンクールの作品募集、審査、展示(対象は市内小・中学校生)について、小学生が8点、中学生が1点とのことだが、中学生が少ないのは傾向として最近減っているのか、それとも今回たまたま1点だけだったのか。

(答) 令和5年は小学校が9点のみで、令和4年は小学校8校29点だった。令和3年は小中7校で、中学校が1点だけなど、中学生は少ない傾向にある。

(質) 学生へのポスター作成のお願いの仕方は、学校を通してチラシを一人一人にお渡ししているのか。

(答) 学校を通して文書でお知らせしているが、一人一人に対してチラシの配付はしていない。そこから先のお知らせについては学校にお任せしている。

(質) 応募したら何かがもらえるなどあるのか。

(答) 応募した人全員に記念品は贈られる。入賞者には参加記念品とは別なものが贈られる。「記念品があることを知れば、子供は応募する」という親御さんの意見も聞いたことはある。

(2) 期日前投票について

(質) 名取駅コミュニティプラザでの期日前投票の日数を増やすのが難しい理由は。また、場所は増やせないものか。どのような課題が一番大きいのか。

(答) 管理者、立会人、職員など、人員の確保が一番のネックである。事務局体制も選挙が始まってしまうとかなり忙しい。期日前投票所が多くなるとそれ

だけ準備も多くなる。また、毎日違う職員が行く場合、引継ぎなど様々なことが出てくるため、人の調整がネックになっている。

(質) 選挙管理委員会事務局の人は少なく、経験者も少ない。例えば職員OBで手伝える人はいっぱいいるはずだが、経験者採用は可能なのか。職員OBは、事務局の中にも入れるし、経験豊かなので、活用すべきだと思う。携われる人は制約があると思うが、事務局体制を充実させることは必要だと思うがどうか。

(答) 職員OBなど、期間限定の会計年度任用職員を採用すること自体は可能だが、大勢を採用すると執行経費を超えるという課題がある。また、会計年度任用職員で雇った場合の事務局側の体制のバランスも考慮する必要がある。

(質) 同時選挙が行われた場合について、名取駅コミュニティプラザでの運営が難しいという話があったが、おそらくもう少し広いスペースがないと難しいのだと思う。投票所を1階にした場合などについて、この利用率がどのように影響してくるのか、考えを教えてください。

(答) 名取駅コミュニティプラザは1階のプラザホールだと広さはあるが、通信のための電話線やジャックが2階までしかつながないことから、1階で行う場合は大規模な工事を行う必要があることがまず1つのネックである。また、市役所で期日前投票を行うときもそうだが、混んでいると外に並んでもらうこともあり、名取駅コミュニティプラザ1階で行うと外に並んでもらうことになってしまう。2階だと囲いがあり、暑さ寒さ等はあるかもしれないが、東西連絡通路に並んでもらうと雨風はしのげるので、2階を選んだ。

また、選挙によりけりではあるが、投票箱を1箱に集約してもよい場合もある。衆院選の場合は、小選挙区は分ける必要があるが、国民審査と比例代表は一緒に入れてよいことになっている。開票に多少手間はかかるものの、集約できるものがあればそのような対応も可能であるし、受付を廊下に出すとか、レイアウトを工夫することで、いろいろ方法は考えられる。

(質) 立会人の確保が難しいとのことだが、どのように選んでいるのか。

(答) 期日前投票については、明るい選挙推進協議会のメンバーに依頼している。複数回務めている人もいる。当日投票については、例えば行政区の輪番制や、町内会固定でしていただいているところもある。また、区長に依頼して立会人を推薦していただいていることもある。

(質) 学生が立会人をすることは可能か。

(答) 18歳以上であれば可能である。過去に尚絅学院大学や仙台高等専門学校に呼びかけをしたが、手を挙げる学生がいなかった。他の市町村でも、公募など行ったが手を挙げる人がいないという話も聞いている。若者の意識の啓発を図るなかで、尚絅学院大学との情報交換などもしていきたい。また、区長が地区の大学生に声をかけて立会人に入ってもらっている地区もある。

(質) 若い人に選挙を身近に感じてもらうことができ、また、従事すればお金ももらえるわけだが、立会人に従事する時間は1日を前半後半で分けることはできないのか。

(答) 規定上、1日従事となっている。

(質) 規定とは、市の規定ということか。

(答) 市の規定である。将来的に見直しを検討してもよいのかもしれないとは思っている。

(質) 投票時間が7時から20時となっているが、短くしてもよいのではないかと思うがどうか。19時以降に来る投票者は把握しているか。また、立会人に従事する時間が短くなれば、立会人に立候補する人も増えるのではないかと思うがどうか。

(答) 19時以降の投票者数は伸びていない。期日前投票で投票する人が多い。また、従事した区長からも投票時間を繰り上げたらどうかという声がある。全国的に当日短縮という話もあり、実際に山形県でも投票時間を繰り上げている例はあるが、もう少し研究が必要と考えている。

(質) 当日の投票時間を短くすれば費用が浮くので、その分のお金を期日前に回せばよいのでは。

(答) 当日の投票時間を繰り上げると、その分国からの執行経費も減額されるはずである。相殺になるのか減額になるのかは計算してみないと正確には分からない。当日だと土日になるので、そのほうが従事する際の単価は高いはずである。

(質) 名取駅コミュニティプラザに引き続き設置してほしいという声が複数寄せられたとのことだが、例えばJR利用者がこの投票所を利用したとか、市役所に行くよりはこちらのほうがよい、などの投票者の分析はしているか。

(答) アンケートを取っているわけではないので、通勤通学中なのか、買物途中なのかなど、そこまでは捉えていない。

(質) 名取駅コミュニティプラザの利用者の中で、例えば帰宅する前に投票をしていくなど、そういったものは肌感覚としてはあるか。

(答) 時間ごとの集計をざっと見てみると、夕方のほうが多い。また、恐らく買物にいらっしゃった方が10時から12時くらいのコアの時間帯に多い傾向があると感じている。

(質) 令和7年度は7月に参議院議員選挙、11月に宮城県知事選とのことだが、名取駅コミュニティプラザが3日間で、投票時間は10時から20時までか。

(答) 今のところはそのように考えている。

(質) 名取駅コミュニティプラザでの投票開始時間を早めることや、日数を増やすのは難しいか。「朝行ったらまだ開いていなかった」という声も聞く。可能ならぜひ早い時間から開けることも検討してほしい。

(答) 立会人などの人員の関係や、体制の整備もあるので難しい。

(質) 今後、市民の意見等を基に期日前投票所の在り方について検討したいとのことだが、市民の声はどのようにして集めるのか。

(答) アンケートを取る等、具体的なものを考えているわけではないが、基本的には自然発生的な市民の御意見として出てきたものや、議員の皆様からの情報をもとに、在り方を検討していきたい。

午前10時59分 再 開

○委員長(菊地 忍) 再開いたします。

以上で本日の付議事件は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

大変お疲れ様でした。

午前10時59分 散 会

令和7年1月30日

総務消防常任委員会

委員長 菊地 忍